

日吉台地下壕保存の会会報

第78号

日吉台地下壕保存の会

2006年度総会のお知らせ

昨年度の総会からまた1年、今年度の総会のお知らせをお送りする時になりました。

「新たな戦争遺跡をつくらない」という戦争遺跡保存運動に参加する人々の願いもむなく、世界では、いまだにテロや新たな戦争の火種がなくなっていません。しかし日吉台地下壕保存の会は微力とは言え、戦争遺跡保存全国シンポジウム長崎大会への取り組み、神奈川新聞地域社会事業賞の受賞、港北区「ふるさとサポート事業」ガイド養成講座の実施、ガイドブックの作成など、この1年様々な取り組みを行ってきました。総会の場で、これまでの活動の確認とこれからの活動の方向性についての話し合いができればと思います。

また総会后これまであまり知られていなかった「人事局地下壕」についての学習会をシリーズ第1回として行います。ガイド養成講座に参加された方々も含め、多くの会員の方々のご来場をお待ちしております。

記

日時：2006年6月10日(土) 午前10:00～12:00

場所：慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎中会議室

内容：10:00～10:30 総会
(活動報告、会計報告、活動計画、予算案、運営委員会人事等)

10:30～12:00 学習会シリーズ「慶応日吉キャンパスの戦争遺跡を知る」
第1回「図面から見た人事局地下壕」

講師 新井 揆博

日吉台地下壕保存の会副会長

※終了後、懇親昼食会を予定しております。

神奈川新聞地域社会事業賞 受賞記念講演会



去る1月28日(土)慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎において、昨年本会が受賞した神奈川新聞地域社会事業賞の受賞記念講演会及び記念パーティーが行われました。

講演は十菱駿武山梨学院大学教授(戦争遺跡保存全国ネットワーク代表)により「戦争遺跡保存運動の意義」というテーマで、1995年の文化財保護法の改定、97年戦跡ネットの結成から話を起こされ、保存運動の進展そして日吉台地下壕が国の指定史跡になるための基準をあげられました。(講演要旨;下記)

とりわけ講演の最後に日吉台地下壕について「国民的な理解と市民権」が得られるよう国に先立った調査・研究と日常的な活動を進め、指定後も「管理計画」の策定や見学ガイドなど更なる日常的活動が必要となると指摘された点は日吉台地下壕保存の会にとって重い課題として受けとめていかなければならないでしょう。

講演後、来往舎ファカルティ・ラウンジにおいて受賞記念パーティーが行われました。パーティーには十菱代表はじめ全国から保存運動関係者が祝賀に参加され、お祝いの言葉をいただきました。



○講演要旨・戦争遺跡保存運動の意義

十菱駿武

(山梨学院大学教授・考古学・戦争遺跡保存全国ネットワーク)

★戦後60年、戦争遺跡が注目されている。戦争体験者は国民の(約65歳以上)21%、戦争の記憶が「ひと」から「もの」へ移行しつつある。原爆ドームが世界遺産になった1995年文化財保護法の文化財指定基準が第二大戦終結時までと拡大された。その後、1997年戦争遺跡保存全国ネットワークを結成し、遺跡の調査保存の活動を通して全国的に交流し、運動の裾野を広げている。戦争遺跡は①歴史研究の資料、②歴史教育・生涯学習の教材、③平和学習の物証・平和の語り部である。

★戦争遺跡の調査と保存運動は ①戦争遺跡の全国的な分布調査と個別遺跡の調査・研究の前進、②戦争遺跡の文化財指定・登録の拡大、③戦争遺跡の学習・保存・活用運動の展開、④戦争遺跡の消滅・破壊に対する対策と保存運動、⑤平和博物館建設運動との連携、⑥まちづくりと戦争遺跡の保存活用 があげられ、全国の事例をあげて現況の説明がされた。日吉台地下壕は全国の軍事に関する遺跡544件から50件を選定した中に入っており、『近代遺跡

調査報告書(9)政治』文化庁文化財記念物課編として 2006 年に刊行予定の報告書に掲載される見込みである。

★日吉台地下壕が指定史跡または登録記念物になるためには、指定基準をみたしている必要がある。戦跡であり、日本近代の太平洋戦争末期に海軍の連合艦隊など政府機関の施設として、構築されかつ使用された大規模な遺跡群（地下壕群）・建造物であり、また壕内施設の遺存状態が良好であることから、国史跡の要件を満たしていると考えられる。

★史跡指定に必要な資料は ①『近代遺跡総合調査報告書』、②遺跡分布地図（戦中・戦後の1/25000～1/600 地形図に遺構と地上構築物を記載したもの）、③航空写真

（戦後米軍が撮影したもの、現状写真）、④遺跡現状写真、地下壕内部、地上構築物、⑤地籍図に所有者、面積を記した地図、⑥日吉台地下壕関係資料目録、⑦図書、論文、⑧戦史資料、写真、体験記、⑨慶大保管関係資料、⑩その他 である。保存の会では史跡指定に備えてこれらを準備する必要がある。

★『近代遺跡調査報告書』が公表された後、文化庁の「近代遺跡調査等に関する検討会」が史跡指定に相当すると認めたならば、文化庁文化財部記念物課、神奈川県教育委員会文化財保護課、横浜市教育委員会文化財課が協議した上で、所有者の承認が得られた土地を史跡指定範囲として、土地・不動産の所有者（慶大及び民有地）の承諾を得て、横浜市教育委員会または所有者が指定申請する段階となる。さらに文化庁の文化審議会で決定して、文化財指定の運びとなる。

★条件ウ「当該遺跡が歴史的に重要で保護を要するものであるという点について相当の評価が定まってお伝えたいもの」

り、国民的理解が得られやすい」が、戦争遺跡については評価が定まらないとして行政機関の積極的な推進が得られない可能性があり、国民的な理解、戦争遺跡の市民権をさらに得られるよう、日常的な見学会・学習講座・調査・指定促進活動などを行なわなければならない。

★日吉台地下壕群のうち連合艦隊司令部壕は国史跡相当だが、艦政本部など他の壕は所有者の意向、遺構の保存状態などから、登録記念物または文化財未指定ということもありうる。

★文化財指定・登録後も「史跡保存管理計画」の策定や、見学ガイドが必要なので、「日吉台地下壕保存の会」は慶大や土地所有者と良好な関係を維持して活動を発展することが期待される。



十菱 駿武氏

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座報告

第4回 1月14日(土)「日吉の戦争遺跡を歩く」(その1) 箕輪方面

この日は予定通り慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎に約30人の方々が集合しましたが、コースについての全体説明の途中から、生憎雨が降り出し、急遽延期となりました。寒い中、参加された方々の熱意が感じられました。

この日は寒い日でしたが幸いにも天候に恵まれ、同じく30名近くの方々が参加されました。全体説明の後、海軍功績調査部のあった日吉台小学校から、飯場跡、大聖院(空襲樹木、小嶋萬助墓地)、日吉の丘公園、海軍艦政本部地下壕、赤門坂の飯場跡、井上演劇道場跡とたっぷり3時間近くのコースを熱心に説明を受けながら廻りました。コースの途中、大聖院横の飯場跡では当時のことをご存じの地元の方が戦後の飯場のことをお話下さるなどこれまで得られなかった成果を得ることも出来ました。



第5回 2月18日(土)

グループ討議：テーマ「日吉の戦争遺跡を通して私達が子どもたち
・市民に伝えたいもの」

慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎 会議室

戦争体験者から高校生まで老若男女26名の参加を得て、グループ討議が行われました。幅広い世代の普段全く知らない同士が「戦争遺跡の保存」という重いテーマについて話し合うということは、まさに日吉台地下壕の価値の重要性によるものでしょう。

当講座の最終日を迎え、5班に分かれて標記のテーマで約1時間のグループ・ディスカッションをし、班の代表者による発表を行なった。その後、渡辺賢二講師から講評をいただき、新井運営委員から次年度への抱負が話され、閉会となった。

ここでは、渡辺講師の講評の概略と当日参加者から提出されたレポートの抜き書きとそのまとめを掲載し2005年度講座の終了としたい。

○渡辺賢二講師の講評 概略

ガイド養成講座は日吉台地下壕保存の会では初めてのことで、松代大本営地下壕保存の会では毎年やっている。色々なかたちで学習して、それに参加した人たちが保存の会に入って案内ができるようになっていく。

このガイド養成講座も皆で勉強し、どう残したらいいか、どう説明したらいいか、将来保存した場合どういう展示の仕方があるか研究しながら、案内者になれるように主体的に皆の努力が実るように期待したい。

◆三つの考え

① 戦争遺跡、戦争をどう伝えていくか。

戦場体験者は80歳以上。私は60代で戦争中に生まれたが戦争体験世代とは言えない。70代は学童疎開、勤労動員を伝える世代。戦争は昔のことになった。非戦争体験世代は人口の3/4に、小学生はひ孫の世代。連合艦隊と言っても通訳を介さないと通じない。慶大にある地下壕も何の地下壕かわからない。伝わる言葉で伝える。軍を語るに必要な軍人用語は死語化している。日本国憲法(平和憲法)から軍人用語は消えた。「戦争はいや、戦争は悲惨だ」とだけ聞かされるといやになる。軍艦に興味ある学生は横須賀に戦艦三笠を見学に行くが、日吉台地下壕も三笠に近い面を持つ。見て何を理解するか納得のいく伝え方が求められる。

② 日吉は海軍中枢が存在した場所で原爆ドームや沖縄のガマとは性格が違う。

広島では原子爆弾で10万人の死者がでたことを思い浮かべ、沖縄では米軍の爆弾のあら

しにあい、日本軍からも追いやられガマの中で大勢の人が死んだ。悲惨な場所を実体験できる。

日吉台地下壕の場合、一つは「立派な地下壕」、もう一つは「馬鹿馬鹿しい地下壕、勝てると思ったのか」と感じるであろう。この二つの感性が出発点でどちらも正しい面がある。

日吉の地下壕は戦争の悲惨さを伝えるものではなく、戦争そのものの全体の構造を伝えるもの。連合艦隊とは海軍の中核、バルチック艦隊を打ち破った戦艦三笠の伝統を受け継ぐ海軍の中核機構、それが何故陸に上がったか。艦隊で戦えなくなり、地上で指揮をとることになる負け戦だった。海軍は戦争に反対したといわれるがそうではなかった。海軍指導部は地下壕で命を守り、特攻隊で若者の命を消耗させていくのが戦争の構造。感性でなく、事実をもとにして戦争を理解していく必要がある。戦争を誰も止められなかった構造、無責任さを伝える象徴といえる。感性を認めながら理性的に戦争を理解させていくための、重大な構造を持つ日本有数の遺跡。すでに壊された市ヶ谷の大本営、参謀本部地下壕に匹敵する地下壕。日本にはほとんどなく、戦争遺跡として残す意味があり、戦争を理解する為に残していく意味がある。

③ 伝え方

地下壕を残していくだけでは駄目、パネル、人形を置く、資料館をつくるなど出たが、問題は戦争の内容を伝える語り部が大勢いるかどうか。市民の力で作れるかどうかにかかる。遺跡を残していった、皆が地下壕内で説明ができるように、あるいは「重要だよ」と孫やひ孫に語り継いでいけるような知識と組織と真実を伝えられる地域力ができる時、未来をつくる子が「良かった」といい、平和を考えることができるようになる。自ら語れる人が多くなれば文化財として地域のものになっていく。来年も講座に参加されて語り部になって欲しい。

○受講者提出レポート抜き書き

提出されたレポートからキーワード的な言葉を抜き出しました。

◆地下壕との出会い3年半位前。*陸上競技場から戦場へ送り出された学徒兵を偲ぶ悲しさ、やるせなさ。*戦後60年未解決(中国残留孤児、従軍慰安婦)問題がある。*世界では今も三人に一人は戦時下に暮らしている。*戦争を起こさないことを考える人を増やす。*改憲を目指す政治家がいる。*神奈川県下の基地問題。*「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目になる」 S記

◆地下壕見学があるので参加、現代史を学べた。*大学の敷地に司令部や地下壕



が何故つくられたか。*戦争遺跡により平和を考える。*地下中枢に資料館、解説パネルを。*小学生には戦況、空襲、なぜ戦争が起きたか、平和の有難さを説明。*小冊子『日吉』、紙芝居、鳥瞰図、地下壕内のイラストなど工夫を。*『日本の戦争遺跡』平凡社新書2004あり、戦跡を観光コースに。*学習会や見学会を大学や行政の協力の下に行なう。S記

◆1989年保存の会結成頃、地下壕を見学し大きさに驚き、市ヶ谷、松代、艦政本部地下壕も見学したこと、『太平洋戦争と慶応義塾』保存の会1997を読んだことからこれを書く。*地下壕は誰のためにつくられたか 軍と天皇のため。*アジア太平洋戦争は何だったのか。*慶大になぜ戦跡があるのか、教員は無力だった。*学生はフランス語で「自由をわれらに」を歌う、「生(生きる)＝ゼロ」と板書し抵抗。*レイテ決戦の指令を出す。*日本人300万、アジアで2000万人の犠牲。*中国・韓国

が責任を問う意味を考え、「自分が起こしたのではない」戦争についてどうすべきか提示しなければならない。*戦争は何であったか大学生として疑問を持って欲しい。 I記

◆講座は有意義な体験。*地元で5年間住む、新聞・書物(安岡正篤・中村天風・シャクルトン)、の知識、駆逐艦風雪で「日吉台の壕の中(安全な)から指令をだしやがって」が記憶に。*教育の眼目は継承だ。*WhyではなくHowの思考で。*ビデオ撮影し川崎・横浜の全校に流す。A記

◆保存運動を速やかに(文化財指定、大学の協力、署名、マスコミの活用)。*艦政本部設営隊の飯場の取り壊し残念。*吉林省博物館に日本人の残虐行為の壁画あり、中国の子が凝視。*壕内の復元(人形、スピーカーで話を流す)。 K記

◆戦争遂行の遺跡。*「国民を守るための戦争」のはずが軍のかけ離れた行動に(朝鮮人に強制労働、附近農民の犠牲)。*最近の戦争では地下貫通型爆弾や核弾頭あり、壕では安全や平和は守れない。*学生向け見学会を。*茸型建造物をそばで見たい。 Y記

◆日吉に38年間住むが壕知らず。婦人会で聞いた朝鮮人労働者の話。*幼い子に戦争とはどのようなことか教える。*地下壕が果たした役割を伝える。*現地で土地の人の話を聞く。

I記

◆太平洋戦争の開始から終戦・戦後までの歴史、日清戦争から太平洋戦争までの歴史を学ぶ。*戦争遺跡保存の重要性、困難さ、語り部の継承など説く。*戦争遺跡をきっかけとして太平洋戦争について学ぶ(なぜ戦争に至ったか。犠牲や努力により復興したことを若者に知らせる。極東裁判やA級戦犯についての認識。愛国心を取り戻す)。 O記

◆横須賀浦郷の地下壕は素掘りだ、命令する者・場所は強固で前線や現場は粗末な日本軍。*立派な遺跡の自慢にならないよう。*軍は負の存在なのだと伝える。 N記

◆慶大と地下壕と学徒出陣の戦死者多数というのは無関係とは思えない。*慶大も地下壕保存は大学の存在を問う意義あること。*日吉の壕での戦死者は余りいない、沖縄の地下壕のように悲惨さが見えない、この辺りの対比で位置づけては? *IT、HPなどの活動も有効。

S記

◆戦争遺跡のイメージとしては原爆ドームと沖縄、これは一般人が被害者。*日吉は指令を出したことで加害の面が強く、戦争の違った部分を見せる重要な役割を持つ。*慶大の地下にあり、大学の施設が司令部として使用された。*戦艦大和の出撃も沖縄戦の悲劇もここからの指令だ。*外国人にも知ってもらうために日吉などの戦争遺跡は長久平和のために存在し続ける必要あり。 K記

◆高田に40年間住む、地下壕がこれ程大きいとは知らなかった。*「過去をひもとかない国によい明日はない」、小中学生に地下壕の学習から歴史や平和を学んでもらう。*慶大から出陣した上原良司の無念を学ぶ。*憲法第九条・教育基本法の改正は改悪だ。*自由、平和の大切さを訴える。

*講座は有意義で素晴らしかった、研修を深めたい。 S記

◆最近日吉に来た、戦争遺跡に驚く。*小中学生の校外学習で、市民には講座などで伝える。*教育の大切さ、戦争の悲惨さを伝える。*資料の調査・研究をすすめ、遺跡の保存を。 A記

◆戦争のない日本を考える戦争遺跡。*日吉の地理的位置や日吉全体の海軍遺跡を説明する。*地下壕内にパネルを設置①日吉全体の海軍施設 ②連合艦隊司令部地下壕。 H記

◆1944年連合艦隊日吉移転より敗戦までの作戦(戦艦大和出撃、学徒出陣)からみて、日吉移転は理解に苦しむ、自己保身と。*1941年の開戦から広島・長崎の原爆・東京大空襲以前のレイテ決戦で白旗をあげていればと、徹底抗戦の必要があったか。*「統帥権の独立」を盾に単独で戦争方針を決定、政府・政党の介入を排除、国民は戦争に反対しなかったのか。*馬鹿げた戦争は絶対してはならない。 U記

◆ガイド講座は様々な問題を提起。*国威高揚のもと兵士や庶民が犠牲になった。*外国人にも私達にも補償をしていない国のあり方。*戦争遺跡の見せ方・説明のしかたが大切〜スゴイ・カッコイイになるのでは?〜。*保存には金と人手がいる、市教育委員会、文化財保

護委員、市民に働きかけ、遺跡を後世に伝える意識革命を。 S記

◆地下壕を知ったのは10年前、今回見学して驚き、勉強になった。*見聞したことを他人に知ってもらいたい。 K記

◆防空壕を研究したい①設計・建設・技術のレベル、外国より劣っていたらその要因、②米国上陸に抗戦する意図の有無、③戦争遂行能力と日本の指導者の作戦能力。*竹橋事件を調べたい①事件の真相を書いた史書を読む、②日本の軍隊の反乱史、薩長/非薩長、台湾人、朝鮮人、海外での残虐行為。*勉強してからでないと伝える自信は持てない。 K記

◆TV番組が様々な娯楽を報道する中で、戦争のことなど大切な問題が考えられるように。*昔戦争があり、日本から仕掛けて多くの犠牲者がでた、広島・長崎ばかりでなく、今でも世界中に生々しい証拠が残っている。*恐ろしい戦争の体験者は二度と戦争に遭遇したくないと。*戦争とは何か、正しい視点をもてば戦争は人為的に防ぐことができる。*地下壕は原爆ドームに次ぐ第一級の戦争遺跡。 I記

◆戦後60年戦争体験者2割を切る。*戦争遺跡から戦争の本質を学ぶ。*遺跡の持つ教育



力の活用。*戦争の被害面：日吉の空襲、農家の強制移動、学び舎を失った学生・子供、特攻隊員として戦死した学徒・上原良司ほか、近衛砲兵大隊隊員小嶋萬助。*戦争の加害面：侵略されたアジアの国々の民衆。*聞き取りをし、伝える。*平和博物館としての活用。*平和のメッセージを世界に発信する。 運委A記

◆地下壕に語らせるために今の知識を書き残す。*戦争の世紀と言われる20世紀を学ぶ。*資料館をつくる。*活動できる人を引き込む。 運委N記

○抜き書きのまとめ

- ① 長年住みなれた地元、あるいは最近越してきた日吉に大きな、そして大変重要な戦争遺跡が残っていることに驚く。
- ② 慶大の校舎や寄宿舍が使用され、地下壕まで掘って、軍事施設に利用されたことに対する疑問。
- ③ 日清戦争から太平洋戦争開戦までの約百年間の日本史・世界史・近隣諸国史を勉強する必要がある。
- ④ なぜ太平洋戦争開戦に至ったか、世界情勢、アジアの情勢、日米関係を勉強する必要がある。
- ⑤ 戦争とは何か。世界には今でも戦争に苦しむ人々がいる。
- ⑥ 日吉台地下壕がどのように築造（設計・建設・技術）されたか。
- ⑦ 日吉台地下壕がどのように使用されたか。作戦指令が出された。電信の受信。
- ⑧ 戦中の状況を学ぶ。庶民の生活、空襲、疎開、強制収用、学生生活（反戦も）。
- ⑨ 学徒出陣。特攻、上原良司。
- ⑩ 竹橋事件を研究する。小嶋萬助。軍人勅諭。
- ⑪ 戦後復興期の努力を若者に伝える。
- ⑫ 戦後処理（中国残留孤児・従軍慰安婦・朝鮮人強制労働）
- ⑬ 戦後処理 国内（箕輪の飯場取り壊し、地下壕埋め立て）
- ⑭ 地下壕（戦争遺跡）から平和を考える。地下壕はカッコイイとにならないよう。
- ⑮ 日吉台地下壕内の整備（解説パネル、復元）
- ⑯ 日吉台地下壕を知ってもらうために（紙芝居・鳥瞰図・壕内のイラスト・ビデオ撮影）

- ⑰ 戦争体験者からの聞き取りをし、記録に残し後世に伝える。
 ⑱ 戦争遺跡を探訪する
 ⑲ 日吉台地下壕の平和館、資料館としての活用。平和のメッセージの発信。
 ⑳ 広島・長崎の原爆遺跡、沖縄の地下壕が被害者の遺跡であるのに対し、日吉台地下壕は作戦指令の出された加害と見なされる遺跡である。

★①から⑳まで書き出してみると戦争にまつわる問題点が全て網羅されていることに気がつく。1人の人が書いたのではこうはいかないと思う。21人の人が日吉の戦争遺跡を歩いて、思い思いに考えをめぐらした結果出てきた問題点である。多くの人が見学会に参加して、自分で考える力を持つことが如何に大切かと考える。大切な見学会はわずか2時間、その短い時間に全てを語り切ることは難しいが、要領よくまとめて、心に響く語りを心がけたい。

「子どもや市民に伝えたいもの」との問いかけだが、自分が勉強したいものに置き換えられた感じがする。皆が納得のいく勉強をして「伝える」仕事に携われることを期待する。

受講者アンケートのまとめ

1. グループ・ディスカッションの感想 (06.2.18 提出)
 - 参加者と話ができて、良い企画だ。 5名
 - 他のグループの話と合わせ、地下壕の今後の課題・方向性を考えた。 1名
 - 資料館建設の意見が多かった。実現が望まれる。 1名*
 - 遺跡の保存、如何に理解し、伝えるか。小・中・高・大学生にどう伝えるか。体験者の話、ガイド(かたりべ)を増やす必要。 2名
 - 高齢者が多く話が散漫。 1名
 - 高齢者の体験談が聞けて勉強になった。 1名
 - テーマを絞って欲しかった。 1名
2. 第1～4回の講座はいかがでしたか (06.2.18 提出)
 - 地下壕見学衝撃大。 4名
 - 歴史についての講義は勉強になった。 2名
 - 講演と見学の組み合わせが適当だった。 2名
 - 戦争を考えるきっかけになった。勉強したい。 2名
 - 神奈川や他都市の戦争遺跡見学のツアーを実現して欲しい。 2名
 - 両見学会は参加者多数で、班分けの間隔とか、実施の工夫が必要。 2名
3. 来年度以降の活動に対する要望 (06.2.18 提出)
 - 積極的な活動を期待する。 1名
 - 参加者の裾野を広げて欲しい。手伝いできる人を増やす。 2名
 - 研修を深める講座を。 1名
 - ガイドは無理としてもお手伝いをしたい。 1名
4. その他 (06.2.18 提出)
 - ガイドとなり、人々に伝えたい。ホームページの情報発信に協力したい。 2名
 - 来年度も参加したいが無理かも。 1名
 - 運営委員になる気持ちで頑張ってもらいたい。 1名
5. 今後の講座への提案 (05.10.22 提出)
 - 大変貴重な話を有難う、学生が参加すべき講座、授業の講義では聴けない。 2名
 - 沖縄・知覧を見、語り部が戦争の状況を伝える意義を確認、身近な地域で目で確かめる。 1名
 - アジア民衆の 8.15 以後の真実の声、アメリカの政策に組込まれた日本の姿が明らかに。 1名
 - 小1の時外地で終戦、引き上げ後戦争を知った。戦争について勉強したい。 1名
 - 企画は勉強会か？人数を絞り実施訓練を新井さんに指導して貰いたい。 1名
 - 外国より日本を見た興味深い話。8.15の敗戦時の東南アジアの意見等の資料が見たい。 1名

6. 地下壕をいつ頃、何で知ったか。地下壕の感想。保存について (06.1.10 提出)

15年前子どもの遠足でキャンパスに来て。壕は戦時中の空襲等の状況を考え心が引き締まる思い。戦争について少し勉強できた。保存して「戦争をやらない」「不幸な人をつくらない」等多くの方が考えて欲しい。1名

10年前友人が見学会に参加したのを聞いて。思いのほか立派な壕で驚いた。1名

ガイド養成講座・継続フィールド・ワーク実施



ガイド養成講座の継続として 4月15日(土)、講座に参加された方々を対象に、人事局地下壕、航空本部地下壕などこれまで、あまり廻られなかったコースの見学会が実施されました。54人の方々に葉書でご連絡して24人の参加という高い参加率で講座に参加された方々の意欲が伝わってくるようなイベントでした。

春の花々の咲く午後、ポカポカとした良いお天気のもと、来往舎に集合し、コースの全体説明後、人事局地下壕入り口、保福寺、小泉信三碑、まむし谷の構造物、航空本部地下壕、連合艦隊地下壕と各

ポイントを、説明を聞きながら熱心にメモを取ったり、時にはメジャーで測定したりとレベルの高い見学会となりました。会としても新しい見学コースとして確認でき、大きな成果とすることができました。今後人事局地下壕を中心に学習会を行い、日吉台地下壕群の全体構造の研究を会として更に継続していくことも確認されています。

2005年度 港北区「ふるさとサポート事業」 成功裡に終了

2006年度に更につなげよう

これまでもお伝えしましたが、日吉台地下壕保存の会は2005年度 港北区「ふるさとサポート事業」に応募、助成金を受けて①ガイド養成講座 ②日吉の戦争遺跡のやさしいガイドブックづくり 二つの事業に取り組み、どちらの事業も大きな実績をあげて、終了しました。2006年度もこの事業に応募することが確認され、更に発展的に継続することが次の課題となっています。



お知らせ

ガイドブック
『戦争遺跡を歩く 日吉』
が出来ました

日吉の戦争遺跡をわかりやすくまとめたガイドブックを1月末に3000部発行し、先日 会員の皆様にお届けしました。A5版 カラー 32頁の『戦争遺跡を歩く 日吉』です。

作成費の2000部分を「港北ふるさとサポート事業」の助成が受けられたので、港北区内の小中学校に各15部を贈呈、地下壕見学の学校(参加者全員)、図書館などに配布することができました。2月からはこのガイドブックを使って見学会を行っています。

昨年のはじめは編集作業とガイド養成講座の運営に追われる毎日でしたが、以前から必要を感じていた、コンパクトなわかりやすいガイドブックを発行できてほっとしているところです。配布した皆様からも大変好評で本の注文、配布希望も多く、子どもたち、市民の見学、地域理解に役立っているようです。ガイドブック『戦争遺跡を歩く 日吉』を、日吉の戦争遺跡の小さな案内者として活用して行きたいと思っています。会員の皆様、このガイドブックへのご意見、ご感想等をお聞かせください。

会員、学校、見学会への配布で作成した3000部が残り僅かになってきました。増刷を考えているところです。

☆『戦争遺跡を歩く 日吉』は1部200円で頒布しています。保存の会にご注文ください。



文化庁と戦跡ネットとの懇談行われる

去る3月22日、文化庁会議室に於いて文化庁記念物課磯村幸雄主任文化財調査官と十菱駿武戦跡ネット代表を始めとし新井本会副会長を含める7名の全国戦争遺跡保存ネットワーク運営委員による懇談が行われました。懇談は

- ①戦争遺跡の詳細調査の進行状況について、報告書の刊行について
- ②戦争遺跡の史跡指定会議の内容について
- ③各地の戦争遺跡の現状報告と文化庁への要望事項

の3点について行われました。この懇談は、国が民間の保存団体と直接情報交換を行い、要望を聞くという保存運動の発展を示す正に画期的なものです。懇談の概要は以下の通りです。

《文化庁より》

・詳細調査の進行状況は本土については終了した。現在レポート作成中。沖縄は本島については終わったが離島の調査は遅れている。琉球大学の池田先生にレポートをお願いしている。
・近代遺跡調査は2006年度内には出せる見込みだ。但し分野ごと（交通、通信、産業）に作業しているので優先順位の調整も必要となる。

・史跡指定、登録の検討会は2006年度より開始する予定。

どの史跡が対象になるかはわからない。この件ではそれぞれの住民や自治体の姿勢が大切であり、国が全て決めて地方に下ろすということではない。

・遺跡の保存・公開について、特別な場合を除き一般的に国が県や市の教育委員会に指示命令をすることはない。

Q：日吉台地下壕保存の会より

日吉には文化庁の山下調査官が来られ、県、市、慶応とお会いになったと聞いている。史跡指定に向けての調査があったと思うが如何。日吉台には連合艦隊司令部壕、軍令部、東京通信隊、航空本部、艦政本部等の地下壕群があり、文化庁は史跡指定をどこに焦点を当てているのか知りたい。

A：日吉台周辺の遺跡については、歴史的に見てもその重要性は皆さんが認めているものであるが、どこをどのように保存していくかについてはその必要性も含めて検討していくこととなる。

他の地域についての応答

A：松代大本營の遺跡で長野市が言っている「国がやらなければ市で考える」というのはおかしい。まず市で指定することも一つの方法だ。市が指定したものは国は知らないということにはならない。

A：京都市、京都府の対応が悪いと言われるが、私企業等が相手の場合行政が踏み込めない一線がある。住民側が企業との対話を進めて理解と協力を求めることも必要だ。その際文化財としての指定だけではなく、登録文化財としての方法も考えてはどうか。

その後高知、長崎、横須賀、宇佐、館山など各地の戦跡の状況報告、質疑があり、今後もこのような懇談を年一回位開催する事を要望して約1時間半の懇談は終了しました。

お知らせ

第10回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」 群馬県・みなかみ大会

いで湯の里へ、神奈川から多くの方々の参加を！

アジア太平洋戦争の遺跡保存に向けて多くの研究や成果を上げてきた「戦争遺跡保存全国ネットワーク」の年1回の全国交流の場である「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は今年10回目の節目の年を迎えます。これまでの活動のまとめを行い、これからの方向性を考えるため、またこれまでの活動の疲れを癒すことも合わせて、今年のシンポジウムは群馬県みなかみ温泉で行われます。また中国、韓国、マレーシアからアジア・太平洋戦争の研究者をお呼びして、国際的視野からアジア・太平洋に残された戦争遺跡保存の課題について考えます。

あの戦争は「大東亜戦争」という日本の国内だけで通用する用語で考えるべき問題ではなく、アジア・太平洋諸国全体の国際的な問題であったことをもう一度とらえ直し、国際連帯を深める場にすることがこのシンポジウムの大きなねらいと言えるでしょう。世界史の中で「アジア太平洋戦争」をとらえる場として、神奈川から、川崎・横浜から多くの方々が参加

されることを願っています。

テーマ：アジア太平洋の戦争遺跡と21世紀の平和を考える

戦争遺跡保存運動の10年と展望

1. 主催：戦争遺跡保存全国ネットワーク
第10回戦争遺跡保存全国シンポジウム群馬大会 群馬県実行委員会
 2. 開催日 シンポジウム：2006年8月19日(土) 13:00～17:55
分科会と総会： 20日(日) 9:00～17:00
フィールド・ワーク 21日(月) 9:00～15:00
 3. 会場 群馬県みなかみ温泉・松の井ホテル
群馬県みなかみ町湯原551 Tel 0278-72-3200
Fax 0278-72-3210
 5. 日程
- 8月19日(土)
- 12:00～13:00 受付
 - 13:00 全体集会
 - 13:30～シンポジウム「日本・アジア・太平洋の戦争遺跡」
 - 13:40～14:10 中国(中国中央電視台・候新天さん)
 - 14:15～14:45 韓国・済州島(韓国の研究者・金元福さん)
 - 14:50～15:20 マレーシア・シンガポール(楊佐智さん)
 - 15:20～15:45 休憩
 - 15:45～16:15 ビルマ(前橋国際大学・岩根承成さん)
 - 16:20～16:50 南洋諸島(元国連職員・坂口春海さん)
 - 16:55～17:25 日本(山梨学院大学・十菱駿武さん)
 - 17:25～17:55 質疑応答・討論
(紙上発表；フィリッピン・石田甚太郎さん)
 - 18:00～19:00 お風呂タイム
 - 19:00～21:00 交流会
(交流会後海外の発表者を囲んで更に懇親を深めます。)
- 8月20日(日)
- 9:00～12:00 分科会
 - 第一分科会 戦争遺跡保存運動の現状と課題
 - 第二分科会 調査方法と保存整備の技術
 - 第三分科会 平和博物館と次世代への継承
 - 12:00～13:00 昼食
 - 13:00～14:30 分科会 同上
 - 14:30～16:30 全体集会(地域報告、分科会報告、大会アピール、閉会挨拶)
 - 16:00～17:00 戦争遺跡保存全国ネットワーク第10回総会
 - 17:00～18:00 お風呂タイム
 - 18:00～19:00 夕食
 - 19:00～19:30 地域報告 群馬の戦争遺跡
(21日のフィールドワークの事前学習)

19:30~20:00 地域報告 月夜野強制連行裁判(同上)

8月21日(月) フィールドワーク

9:00~15:00 みなかみ→月夜野→沼田→高崎

→群馬の森公園(昼食)→高崎駅解散

後閑の地下工場、如意寺の碑、上和田の地下工場跡

特殊演習場跡(車窓から)、陸軍岩鼻火薬製造所跡の見学

※群馬の森公園では産業考古学会会員からの解説もあります。

展示会 8月19・20日

書籍販売会 8月19・20日

6. 経費 大会参加費(1800円、但し高校生以下は無料)

宿泊費、交流会費、フィールドワーク参加費、お弁当代等につきましては5月中旬確定予定、次号にてお知らせします。

お知らせ

みつめよう!語り合おう!戦争の過去と今

5月29日・横浜大空襲の日から61年

『2006平和のための戦争展 in よこはま』開催 5/26~28

『平和のための戦争展 in よこはま』は、開催10周年を迎えました。横浜で多様な活動をしている市民グループが実行委員会を持ち、続けてきました。日吉台地下壕保存の会も第1回から展示などで参加しています。

日程 5月26日(金)~28日(日)

会場 かながわ県民センター 1階展示場・2階ホール(横浜駅西口 ☎045-312-1121)

特別企画 ○戦禍の横浜、戦争に動員される市民、他 ○戦時下の庶民生活

展示 横浜大空襲/日吉台地下壕/栄区燃料廠/船と戦争/横浜の戦争遺跡/横浜事件/アジアでの戦争/原爆展/占領下の横浜/米軍基地/米軍機墜落事件/基地被害/現代の兵器/教科書/憲法9条/世界の平和・WFP・アムネスティ/戦争展10周年 etc

10:00~19:00 (28日は18:00まで)

5/26 映像とトーク 忘れてはいけない横浜の記憶 18:15~20:30

5/28 朗読劇 小・中学生たちと創る「横浜の空襲と戦災ものがたり」 トーク「子どもたちに伝えたいー私の戦争体験」米倉斉加年さん(俳優) 14:00~16:30

主催 2006平和のための戦争展実行委員会 (045-241-0005 fax045-241-4987)

■ 会員の皆様へお願い 「平和のための戦争展 in よこはま」会場展示係・書籍販売係を手伝ってください! 25日搬入から28日まで少しの時間でも会場に来られる方、ご連絡ください。(045-562-0443 喜田 まで)

☆☆5/27 映像とトーク「戦争案内~なぜ戦争は起きるのか」高岩仁さん 18:30~

同ホールにて 主催 「戦争案内」上映実行委員会 045-931-4901

☆☆

(活動の記録)

● 活動の記録 2006年1月～4月

- 1/12 第10回運営委員会 会報77号発送(慶応高校物理教室)
 1/20 地下壕見学会 下田町自治会 37名
 1/25 地下壕見学会 金沢区生涯現役会 29名
 1/28 神奈川県地域社会事業賞受賞記念講演会・祝賀会(来往舎)
 1月定例見学会 43名
 2/4 第4回ガイド養成講座 27名 (フィールドワーク 1/14雨天のため変更)
 2/7 第11回運営委員会(日吉地区センター)
 2/9 2/16 港北区小中学校校長会でガイドブック『戦争遺跡を歩く 日吉』を紹介、
 区内各校に15部を贈呈(新井副会長他)
 2/18 第5回ガイド養成講座 27名 (グループディスカッション・まとめ)
 2/24 地下壕見学会 川崎市立日吉中学校3年 100名
 2/23 NHK第一放送「きょうも元気でわくわくラジオ」日吉台地下壕を紹介
 2/25 2月定例見学会 20名
 2/28 地下壕見学会 日吉南小学校6年 65名
 3/2 地下壕見学会 鴨居中学校2年 28名
 3/6 地下壕見学会 田園調布学園 55名
 3/7 地下壕見学会 私大環境保全協議会研修会 69名
 3/11 港北ふるさとサポート事業 活動報告・交流会 参加団体他80名(来往舎)
 3/14 第12回運営委員会(慶応高校物理教室)
 3/22 文化庁との懇談(戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員)
 3/25 3月定例見学会 40名
 4/7 地下壕見学会 慶大理工学部応用化学科クラス会 広島工大一機会 21名
 4/11 地下壕見学会 若木会(海軍兵学校76期) 30名
 4/14 第13回運営委員会(慶応高校物理教室)
 4/15 フィールドワーク日吉キャンパス周辺を歩く 29名(ガイド養成講座参加者・運営委員)
 4/22 4月定例見学会 21名
 4/28 第14回運営委員会(慶応高校物理教室)
 予定
 5/13 第15回運営委員会 会報78号発送(慶応高校物理教室)
 5/27 5月定例見学会(参加者多数につき見学希望の方は6月の定例にお願いします)
 6/10 2006年度定期総会

▲定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。(見学申込先 TEL&FAX045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758
 (見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
 ホームページ・アドレス: <http://www.geocities.HearthLand-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会